

みなみ保育園の保育について



和光市イメージキャラクター
「わこうっち」

和光市みなみ保育園

住所 和光市南2丁目3番3号
電話 048-450-4641
FAX 048-463-1200

令和6年9月作成

みなみ保育園について

和光市みなみ保育園は、平成13年4月に和光市の公立保育園として開園した0歳児～5歳児までをお預かりする園児定数180名と大型の保育園です。子育てに関わる他の機関やその他の保育施設との連携を大切にしながら、チャレンジ保育児・医療的ケア児（R7年度4月より）を受け入れ、和光市の目指す保育を行っています。

在園する園児・保護者の方々、和光市に在住の方々が安心して過ごせる環境作りを目指しています。

和光市の保育が目指すもの



子どもの権利

全ての人は、生まれた時から「かけがえのない価値を持った一人の人間」として尊重される権利を持っています。私たち大人は、子どもが自分らしく育つために、子どもの権利を保障し守る責任があります。

子どもの権利条約の基本的な考え方は、「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」の4つで表されます。

和光市では、「子どもが自己肯定感を持ち健やかに育つための保育」の実現のため、保育施設職員・保護者・地域とともに、保育の質の維持向上に取り組んでいくことを目指しています。「子どもの権利」を理解し、子どもの最善の利益を保障することを常に意識していきましょう。

～ 和光市 保育の質のガイドラインより抜粋 ～

「保育理念」



「私たちは、ゆったりと安心して過ごせる環境を整え、子どもたちが生き生きと育ち、みんなの笑顔あふれる保育を目指します。」

「基本方針」



- 1 子どもが安心して過ごせる環境をつくり、一人ひとりの心に寄り添った保育をする。
- 2 豊かな心とからだ、人として生きる力を育てる。
- 3 家庭と協力し、子育てを共に行う。
- 4 子育て家庭への支援を行う。
- 5 地域に拓かれた保育園づくりをする。

「保育目標」



こころとからだが元気な子
ともだちといっぱい遊べる子

子どもは一人ひとり発達の過程や発達状況が違います。また、アレルギー疾患を持つ子や外国にルーツを持つ子、目に見える障害のある子や目に見えない障害がある子など、みなみ保育園では多様な子どもたちが共に生活をしています。保育士等は一人ひとりがその子らしく安心して生活できるよう適切な環境を整え、支援していくことが必要だと思っています。また、周りの子どもたちは大人の関わりを見たり知ったりすることにより、社会には多様な人がいることへの理解を深めていきます。それぞれの違いを認め合い、尊重し合って生きていく心が育つよう、保育士等は共に過ごすことを楽しみ、子ども同士をつなげる役割を果たす必要があると思っています。

保育士の関わり



みなみ保育園の0・1歳児クラスでは、子どもと保育士との愛着関係を大切にしています。子どもたちの生理的欲求を敏感に感じ取り、それを満たすことで子どもたちが大人との愛着関係を築き、人への基本的信頼を培うことができるように日々の関わりを大切に保育を行っています。

子どもの思いを尊重した応答的な保育を行うために、年齢ごとに関わりの工夫をしています。子どもたちの発する言葉だけではなく、行動やまなざしなどからも子どもの気持ちを読み取れるように丁寧な関わりを心がけています。

また、みなみ保育園では子どもたちが主体的な学びができることを大切に考えているため、子どもたちの興味や関心を探り、環境を整えることで子どもたちの自発性を引き出し、子どもたちが自分で考え、行動する姿を援助するように保育士が関わりをもっています。声の大きさやトーン、表情やしぐさ、態度等にも気を付け、落ち着いた雰囲気を作れるよう意識しています。

保育環境



1.裸足保育

0～5歳児まで室内で裸足保育を取り入れています。『足のアーチ（土踏まずを含む）』は歩いたり、走ったり跳んだりするために欠かせない部分です。全身を支え、運動に推進力や弾みを与え、衝撃を和らげます。大人は全部で3つのアーチがありますが、生まれたての赤ちゃんには殆どありません。赤ちゃんの足は厚い脂肪に覆われており、成長に伴ってこの脂肪が取れ、骨が形成され徐々にアーチが形成されます。このアーチの形成が始まるのが3歳頃です。足の指をしっかりと使い、運動することで発達が促されます。

アーチが形成されると体幹が鍛えられ、運動能力を大きく向上させることができ、転んだり怪我をしたりすることも減っていくと言われています。地面を素足で踏みしめることで、足の裏に刺激を与え、脳の発達にも繋がっていきます。地面のすべすべ感、デコボコ感、冷たさや温かさ等、色々な感覚を足の裏で感じることによって、五感も養うことが出来ます。全身を使って強く丈夫な身体作りを目指しています。

※3つのアーチとは足の内側縦方向の1番大きなアーチ（土踏まず）、足の外側縦方向のアーチ、足部の中足部に存在するドーム型のアーチを示し、これらのアーチは歩行やバランスの維持に重要な役割を果たしています。

～避難時には～

避難する場合は自分の運動靴、又は保育園保管の靴を着用して避難をしています。

2.環境設定

各保育室に4つのコーナー、園庭を1つのコーナーとして考え、子どもたちに必要なコーナーを5つとして、環境設定を行っています。

①絵本コーナー・・・くつろげる場所でじっくり絵本が読めるように工夫をしています。部屋の入口付近にはせず、落ち着ける場所になるよう柔らかな素材のもの（クッションやまくらなど）を用意しています。

②ごっこ遊びコーナー・・・再現遊びができるよう家庭と同じような道具を準備しています。食事にかかわる道具、お世話をするための人形、見立て遊びができる素材や道具などを配置していますが、細やかな手の動きが難しい年齢には大きな鍋を用意するなど、成長発達に合わせて、ごっこ遊びの道具も考えています。

③積み木遊びコーナー・・・積み木は豊かな遊びを展開するために年齢ごとに必要な個数を考え、各クラスに配置しています。みなみ保育園では基尺が揃い、重みがちょうどよく、着色のない、安定した積み上げができる2種類の大きさの積み木を使用しています。

④その他のコーナー・・・子どもたちの年齢に合わせ、その他の遊びのコーナーを設けています。低年齢のクラスなら手指を使った遊びができるものを置いたコーナー、3歳児以上のクラスでは自由に制作ができるようなコーナー、またどのクラスにも音の出るものや楽器などを置き、手に取れるようにしています。

⑤園庭・・・園庭の中心にはシンボルツリー（くぬぎ）があり、その他にも梅・桜・ぶどう・ゆず等、四季折々を感じられる樹木を植えています。虫探しや砂遊びで水や自然に触れることで五感を使いながら想像力を膨らませ、それぞれが好きな遊びに没頭できる園庭作りをしています。栽培や収穫が経験できるような環境を構成し、遊びの素材となるような植物や作物も育てていく過程で生き物との出会いも経験しています。

また、自分たちが考えて、ごっこ遊びの場や身体を動かせる環境を作れるよう、可動式で子どもたちが持ち運べるような遊具（バスマットやコンテナ等）を用意しています。

3.リズム遊び

近年、子どもたちの体力低下が懸念されています。子どもの運動発達の実態を踏まえて、体幹等これから獲得して欲しい力を考え、子どもの発達を促す遊びとしてリズム遊びを取り入れています。音に合わせて身体を動かすことによって、手や腕、肩、胸、足、腰などの力や調整力、協応性、柔軟性、リズム感や表現する力を養えるよう、各クラス年齢や発達に合わせたリズム遊びをしています。

食を営む力について



健康な生活の基本として、「食を営む力」を育てていきたいと考えています。発達段階に応じて豊かな食の体験を積み重ねていくことで、食べることを楽しみながら、食習慣やマナー、食べ物の大切さや調理してくれた人への感謝の気持ちなど、様々なことが学べるよう食育活動の計画を作成しています。保育士、栄養士、調理担当職員等が連携し、家庭とも協力をして食育に取り組んでいきたいと思っています。

子どもの健康支援について



みなみ保育園では、子どもが心身共に健康に過ごし、その発育及び発達を保障できるよう安全で清潔な生活環境を整えています。食事・排泄・睡眠・着脱・清潔などの基本的な生活習慣が身に付くよう援助すると共に、日頃から子どもの健康状態について保護者と情報を共有し、健康な身体を作っていきたいと思っています。また、子どもたちに向けて『風邪予防指導』、『手洗い指導』等の保健指導も行い丈夫な身体作りにつながるよう働きかけています。

安全管理について



緊急時や災害時に備え、地震・火災の避難訓練は毎月行い、3歳児以上を対象にした『防犯訓練』や『交通安全指導』を行い、安全について学ぶ機会を設けています。

年齢ごとの関わりについて

◆0歳児◆



成長発達が著しい時期です。食事面や生活リズムの個人差も大きいため担当制保育を取り入れ、特定の保育士との一対一の関わりの中で生理的欲求（食べる・眠る・排泄する）を満たすことで、安心できる関係性（愛着形成）を築き、家庭や職員間で連携を取りながら保育を行っています。

座る・はう・立つなど成長と共にできることが増え、身体を動かす楽しさを知り、泣く・笑うなどで快・不快を表す0歳児。一人ひとりの発達に合わせ気持ちを受け止め、応えるような丁寧な関わりを大切にしています。

◆1歳児◆



0歳児は少人数クラスですが、1歳児からは人数が増え、2クラスの並行クラスになり、友だちも保育士も一気に増えます。

言葉が増え、自分の力で好きな所に移動できるようになり、自発的に行動しようとする時期です。身の回りの様々なものにも興味津々…何でも触れたり口に入れたり危険もたくさんあります。安心した環境のもと自己主張を受け止め共感し、自分を表現できる関係性を築けるような保育を行っています。子どもの“やりたい”に寄り添いながらも、安全面に配慮した環境設定を心掛けています。

◆2歳児◆



“なんでもやってみたい”気持ちが強くなり、基本的な生活習慣に関しては“自分でできる”ことが増えてくる時期です。その反面、自分でできることでも甘えたり、ふざけたり、時には「やだ」と言ったり…。大人の反応を試しながら、受け入れてもらえる安心感や自己肯定感を持つようになります。子どもの気持ちや自我を受け止め、“自分で！”の意欲を大切に、先回りしてさえぎらないような関わりを行っています。

遊びでは、生活体験が遊びにつながり反映される時期です。人形のお世話をする遊びやごっこ遊びなどが楽しめる環境を用意しています。保育士との一対一の遊びから、友だちとの関わりを楽しむ様子も見えてきます。日々の生活や遊びの中で相手にも気持ちがあることを知り、思い通りにいかないことがあっても乗り越える力を培っていけるように保育士が仲立ちしています。

◆3歳児◆



4月、クラスがスタートする時期は、2歳児からの進級児が半数、新入園児や転園児が半数と人数も増え、保育室も広くなり新しい環境への期待や不安から、戸惑う様子も見られます。一人ひとりの気持ちに寄り添い、安心できる環境になるよう受け止め、共感を繰り返していきます。身の回りのことがかなり自分でできるようになりますが、甘えたり、やりたがらなかったりする姿も見られます。また、自分の好きな遊びを十分に経験し、遊びを通して友だちとの関わりが広がり、社会性が少しずつ芽生えてくる時期です。保育士も一緒に遊びを楽しみながら、友だちとの関わり方を丁寧に伝えていきます。

◆4歳児◆



日常生活における基本的な生活習慣がほぼ自立し、身の回りのことは大人の援助がなくても自分でできるようになります。また運動面では全身のバランスを取れるようになり、身体の動きが巧みになる時期です。子どもたちの自ら成長する力を引き出せるような関わりを心掛けています。

遊びや生活の中で“楽しいな”“なんでだろう”“やってみたいな”が実現するよう、子どもの言葉を拾い上げて、形になるように取り組んでいます。友だちと数人で意見を出し合って遊びを広げる、一つのできごとから友だちと一緒に何かをする楽しさや、意見がぶつかるもどかしさを経験しながら、時にはけんかやトラブルになることもあります。少しずつ相手の気持ちを尊重しつつ自分の気持ちを伝える大切さを学び、人間関係を作り上げられるように援助しています。生活や遊びの中での決まりやルールの必要性を考える機会を設けたり、自分を取り巻く社会のニュースや出来事にも興味を持てるような投げかけも行ったりしています。

◆5歳児◆



これまでの生活経験が基盤となり、一人ひとりが自己を発揮し、友だちと関わり合いながら仲間としてのつながりを深めていく時期です。子どもたちが気づいたこと、考えたことや感じたことを伝え合う経験を重ねる機会を大切にしています。自分なりに考えて判断できるようになり、相手の意見を理論的に批判する力も生まれます。時には意見のぶつかり合いもありますが、物事を話し合って解決していくという関わりの中で、相手の思いを認めたり、許したりするなど社会生活に必要な力を身に付けて欲しいと思っています。たくさんのお話し合いを経験しながら、物事をやり遂げた達成感が味わえ、自信につながるような集団作りを行っています。

また、地域施設や小学校との交流を行い、人とのつながりの大切さや小学校への興味が湧くような取り組みをしています。“小学校ってどんなところ？”の興味や関心がある一方で、ちょっと不安も出てくる時期です。就学のための準備ではなく、日々の生活の中で、見通しを持った過ごし方や、遊びを通じて数や図形、標識や文字などに親しめるようにしています。